

5 学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
- (2) 人材需要の動向等社会の要請

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

秋田大学医学部医学科では、秋田県内の医師定着率向上を目的に、平成19年度入学者選抜から医学科入学定員の枠内で地域枠を設けて、地域に定着する医師の養成の更なる充実を図ってきた。令和4年度入学定員においても、令和3年度を期限とする臨時措置による入学定員の再度の定員増を計画しているが、当該増員29名分についても、秋田県が設定している修学資金制度の支援を得られることとなっている。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

秋田大学医学部医学科の過去5年の志願者及び入学者の状況は、資料1のとおりである。

以上のように、本学部医学科へ関心を持つ県内高校生の人数は一定の水準にあり、志願倍率も高倍率で推移している。また、入学定員充足率も安定していることから、本措置の実施によっても令和4年度において学生の確保は十分に見込まれ、定員増は妥当であると判断する。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

全学開催のオープンキャンパスのほか、本学部では秋田県との共催により、高校訪問セミナーの企画を実施しているが、医学部への進学意欲や関心の高い高校生が毎年度、一定の水準で参加している（資料2）。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

秋田大学医学部医学科では、豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観および学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感あふれる人材を養成することを教育研究上の目的としている。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

資料3「秋田県医師確保計画（抜粋）※再掲」に基づくと、秋田県の医療施設従事医師数（平成30年末現在）は、人口10万人対で見ると全国41位と下位にあり、医師不足の非常事態に直面している。また、平成30年の秋田周辺医療圏の人口10万人対医療施設従事医師数が326.1人となっているのに対して、北秋田医療圏では113.6人となっており、地域における医師の偏在が課題となっている。

以上のとおり、地域を取り巻く医師不足や偏在の問題を解消するためには、地域に根ざした人材の養成が必要である。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料 1 : 秋田大学医学部医学科入学試験状況

資料 2 : 高校生向けの企画

資料 3 : 秋田県医師確保計画（抜粋）※再掲

資料 1:秋田大学医学部医学科入学試験状況

	29 年度	30 年度	31 年度	2年度	3年度
入学定員	124	124	124	124	124
志願者数 (志願倍率)	739 (5.96)	902 (7.27)	752 (6.06)	836 (6.74)	710 (5.73)
受験者数	466	406	378	438	380
合格者数	128	131	128	130	129
入学者数	124	124	124	124	124
入学定員超過率	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

資料 2 : 高校生向けの企画

企画名	概要	令和 2 年度実績		
		開催日	回数	参加人数
オープンキャンパス (医学部医学科)	新型コロナウイルス感染症対策のため OnLine で開催。学生との相談会、教員との相談会、教員による医学科紹介を実施したが、個別対応で実施した部分があり、件数が伸びていない。この他に動画コンテンツ (入試説明動画、研究紹介動画等) をホームページへ掲載した。	8/20	1 回	約 30 名
高校訪問セミナー 【高校生を対象とした医師育成教育事業】 (秋田県健康福祉部との共催)	医学部進学を目指す県内高校生を対象に、医学及び医師の魅力や本学部の教育展開等について講演 (2, 3 年生対象)	①10/7 秋田高校 ②10/14 大館鳳鳴高校 ③10/14 本荘高校 ④10/21 能代高校 ⑤11/16 秋田南高校	5 回 (5 校訪問)	① 52 名 ② 11 名 ③ 7 名 ④ 32 名 ⑤ 22 名 ※②、③、⑤は OnLine 開催

資料3：秋田県医師確保計画(抜粋) ※再掲

令和2年3月

秋 田 県

第 4 節 秋田県の現状

1 県内の医師数の推移

本県の医師数は、平成 30 年末現在で 2,413 人であり、増加傾向にはありますが、人口 10 万人当たりでは 246.1 人と、全国平均の 258.8 人を大きく下回っています。全国との格差はなかなか縮まっておらず、医師の絶対数の確保が必要となっています。

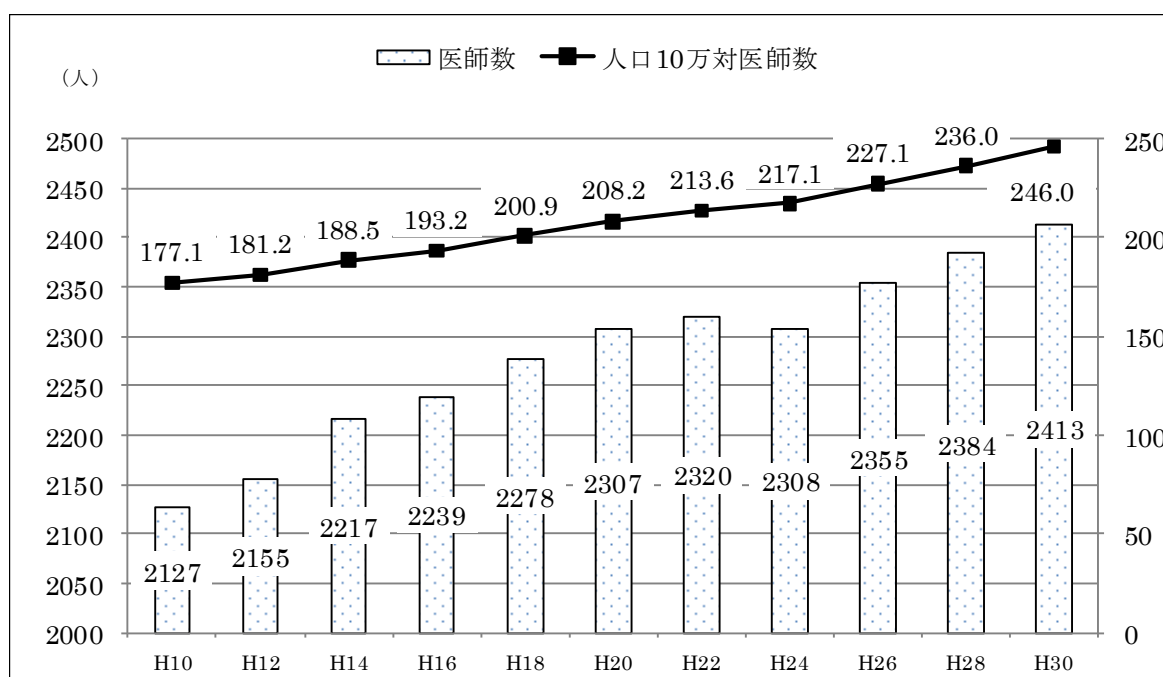
少子高齢化が急速に進んでいる本県においては、産婦人科、小児科、麻酔科等の特定の診療科のみならず、内科、整形外科、外科、眼科をはじめ、ほぼ全ての診療科で、医師不足となっています。

表 1-1 医師数の推移 (単位:人)

区 分	秋 田 県		全 国 (人口10万人対)	対全国平均 (%)
	医師数	人口10万対		
平成10年末	2,127	177.1	196.6	90.1%
12年末	2,155	181.2	201.5	89.9%
14年末	2,217	188.5	206.1	91.5%
16年末	2,239	193.2	211.7	91.3%
18年末	2,278	200.9	217.5	92.4%
20年末	2,307	208.2	224.5	92.7%
22年末	2,320	213.6	230.4	92.7%
24年末	2,308	217.1	237.8	91.3%
26年末	2,355	227.1	244.9	92.7%
28年末	2,384	236.0	251.7	93.8%
30年末	2,413	246	258.8	95.1%

(人)

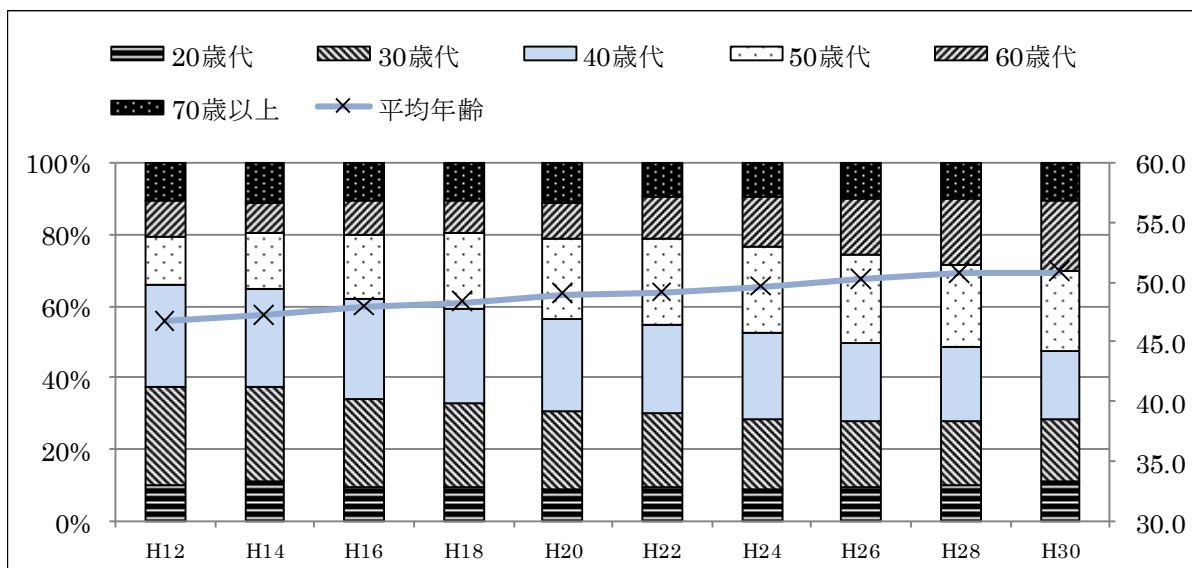
出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査(統計)」



2 医師の年齢構成・平均年齢の推移

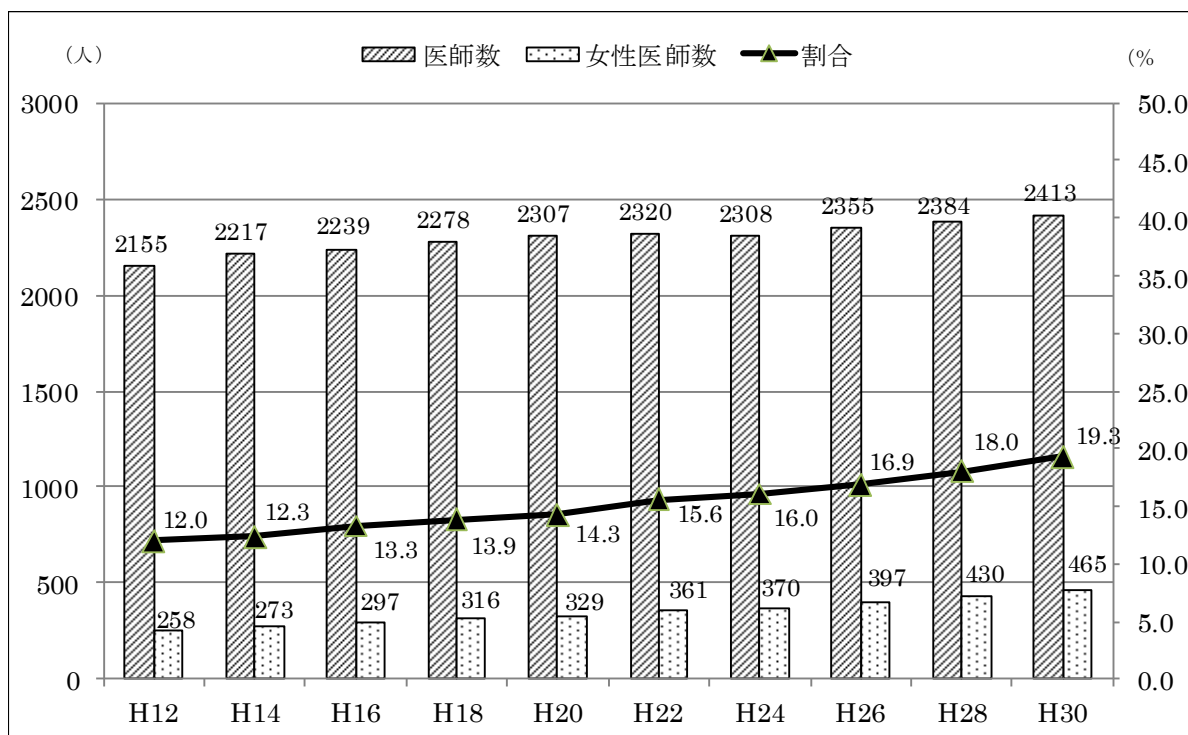
平成30年の県内医師の年齢構成のうち、60歳代（19.3%）、50歳代（22.2%）、40歳代（19.0%）で全体の約2/3（60.5%）を占めています。

平均年齢は、平成10年以降上昇を続けており、平成30年は50.8歳となりました。



3 女性医師数の推移

医師総数に占める女性医師の割合は年々上昇し、平成30年は19.3%（全国21.9%）となっています。



4 診療科ごとの医師数の推移

外科が、平成10年頃と比較すると20人程度少なく推移しているほか、内科、産婦人科についても微減しています。若干の減少傾向が見られます。

小児科や眼科がほぼ同数となっていますが、そのほかの診療科は増加傾向にあり、精神科、泌尿器科、皮膚科は、比較的増加割合が高くなっています。

表 1-2 診療科別医師数(人)の推移

	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	H10→H30
内科	825	814	825	823	810	808	833	822	827	821	810	98.2%
小児科	119	129	125	130	122	128	132	127	126	123	124	104.2%
精神科	125	125	140	146	138	152	152	147	153	149	154	123.2%
外科	237	235	233	220	221	219	204	209	205	208	219	92.4%
整形外科	146	154	163	163	152	157	159	160	165	165	168	115.1%
産婦人科	108	115	111	106	97	99	102	107	107	109	105	97.2%
皮膚科	45	46	48	52	48	48	45	49	50	52	55	122.2%
泌尿器科	65	69	72	71	74	73	75	76	77	77	83	127.7%
眼科	82	83	86	87	80	89	80	87	86	89	85	103.7%
脳神経外科	57	59	61	59	59	56	61	67	68	67	66	115.8%
耳鼻咽喉科	56	66	63	58	55	62	65	63	62	63	66	117.9%
リハビリテーション科	21	20	21	24	21	26	27	26	28	23	24	114.3%

出典：(厚生労働省)「医師・歯科医師・薬剤師調査(統計)」

※診療科について、次のとおり整理集約して分類しています。

内科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科(胃腸内科)、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科(代謝内科)、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科
精神科	精神科、心療内科
外科	外科、呼吸器外科、循環器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科(胃腸外科)、肛門外科
産婦人科	産婦人科、産科、婦人科

5 二次医療圏ごとの状況

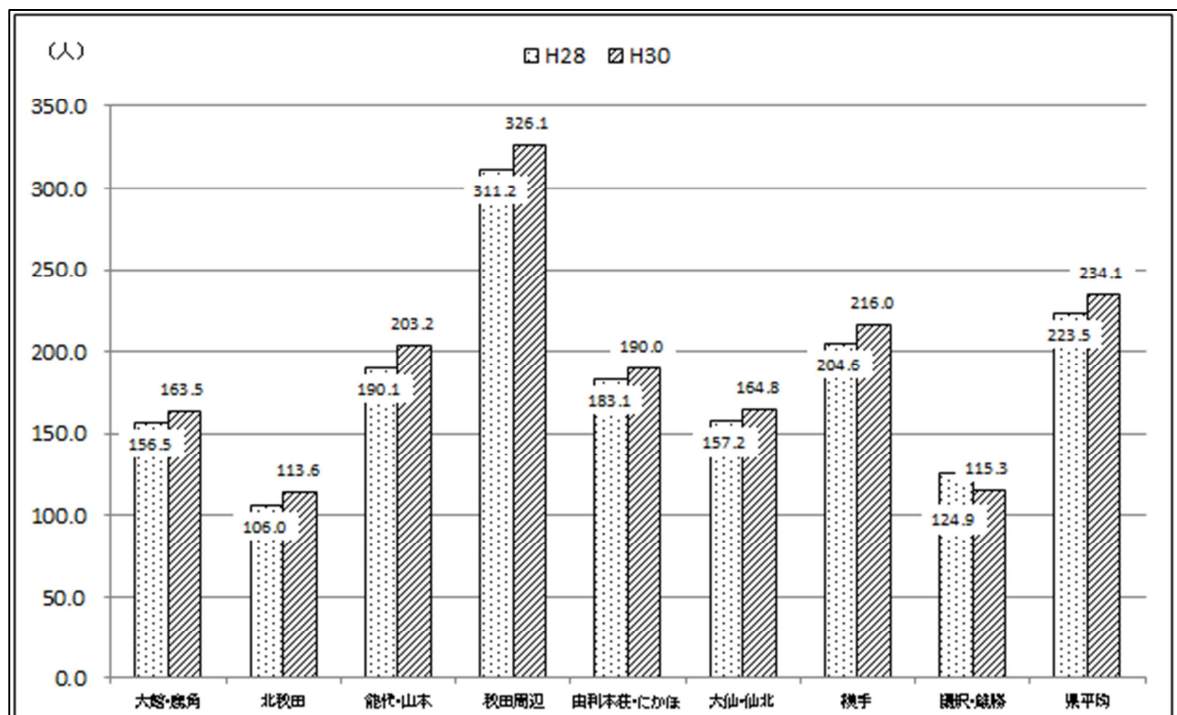
人口10万人当たりの医療施設従事医師数を医療圏別で見ると、秋田周辺医療圏が326.1人と最も多く、最も低い北秋田医療圏では113.6人となっており、地域における医師偏在が顕著となっています。

また、平成28年と平成30年の数値を比較すると、湯沢・雄勝医療圏の人口10万対医療施設従事医師数が減少しており、その他の二次医療圏では増加しています。

表 1-3 二次医療圏の状況 (単位:人)

区分	大館・鹿角	北秋田	能代・山本	秋田周辺	由利本荘・にかほ	大仙・仙北	横手	湯沢・雄勝	全圏域
医療施設従事医師数	174	38	158	1,270	191	205	190	70	2,296
人口10万人対	163.5	113.6	203.2	326.1	190.0	164.8	216.0	115.3	234.1

出典:「医師・歯科医師・薬剤師統計」(平成30年)

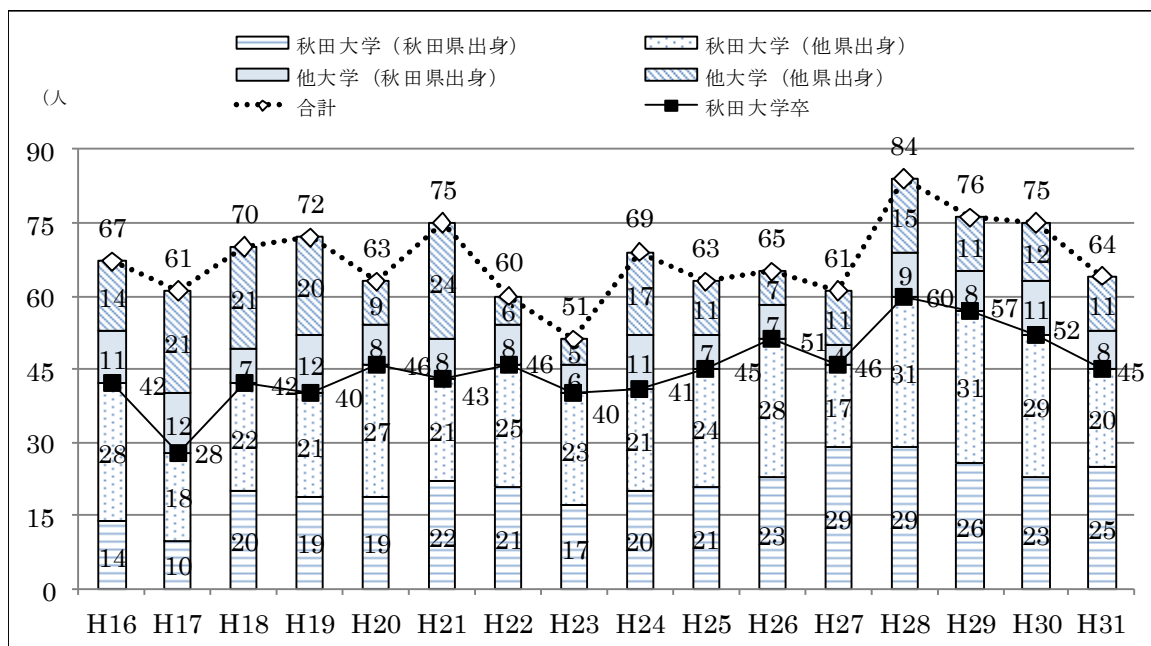


6 医師養成数等の状況

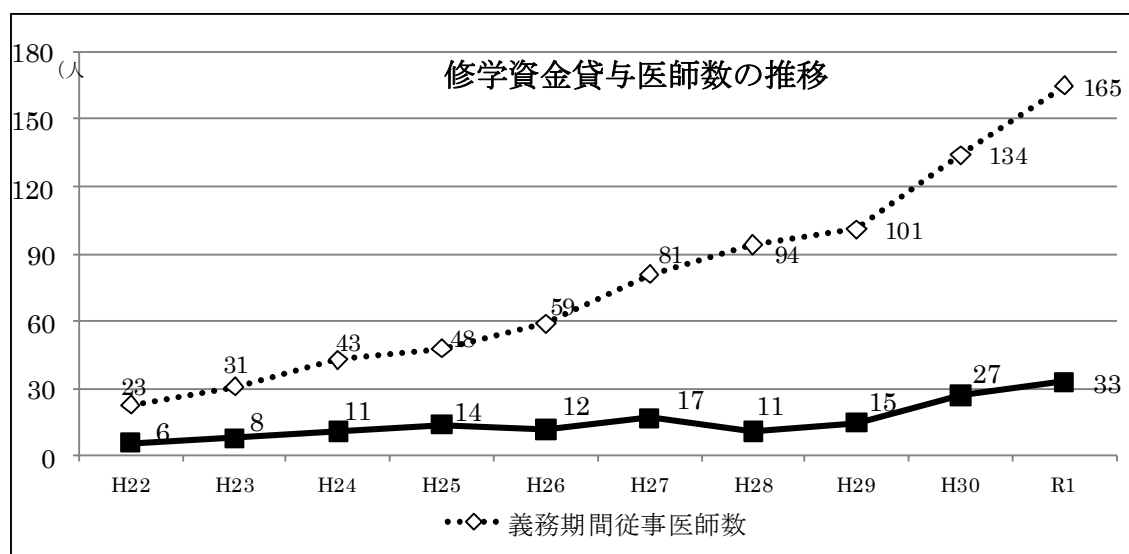
平成16年以降、秋田県内の臨床研修医採用数の平均は約67人で、最も多かったのは平成28年の84人、最も少なかったのは平成23年の51人です。

近年は、臨床研修医採用数の約7割が秋田大学医学部出身者となっています。

平成31年は、新しく始まった専門研修プログラム制度の影響などがあり、64人と前年度に比べ、11名の減少となりました。



県の修学資金の貸与を受け、義務期間として県内の医療機関で勤務する医師は年々増加しており、令和元年時点では165名となっています。知事指定医療機関で勤務する医師も徐々に増え始めており、令和元年時点で33名となりました。



第2節 医師少数区域・医師多数区域

医師偏在指標の下位 33.3%に属する医療圏を医師少数区域及び医師少数都道府県と定義し、医師少数区域に属する二次医療圏又は医師少数都道府県に属する都道府県がこれを脱することを繰り返し、全ての二次医療圏及び都道府県が令和 18 年度までに医療ニーズを満たすことを目指します（図 2-1）。

また、医師多数区域及び医師多数都道府県は、医師確保対策の遂行上の需給バランスの観点から、医師偏在指標の上位 33.3%に属する医療圏と定義されます。

第3節 本県における医師偏在指標の設定

本県に関する医師偏在指標、及び医師偏在指標算定に係る諸数値等は以下のとおりであり、県全体が医師少数県、秋田周辺医療圏を除く二次医療圏が医師少数区域、秋田周辺医療圏は医師多数区域に該当します。

1 本県の医師偏在指標算定に係る諸数値等

本県の医師偏在指標算定に関する「標準化医師数」及び「地域の人口（10万人）×地域の標準化受療率比」は、次のとおりとなります。

表 2-1 医師偏在指標算定に係る諸数値等

医療圏名	標準化医師数 (人)	医療施設 従事医師数 (人)	労働時間 調整係数	地域の人口 (10万人)	標準化 受療率比
全国（参考）	306,270	304,759	1.000	1,277.1	1.00
秋田県	2,277	2,257	1.004	10.15	1.20
大館・鹿角	169	172	0.980	1.10	1.24
北秋田	36	37	0.959	0.35	0.78
能代・山本	149	154	0.965	0.82	1.25
秋田周辺	1,262	1,237	1.015	3.98	1.26
由利本荘・にかほ	184	190	0.964	1.04	1.19
大仙・仙北	204	202	1.007	1.30	1.10
横手	193	186	1.030	0.92	1.32
湯沢・雄勝	80	79	1.007	0.64	0.93

2 本県の医師偏在指標等

本県の医師偏在指標、区域の指定及び都道府県別又は二次医療圏別の全国順位は次のとおりとなります。

表 2-2 医師偏在指標及び区域の設定

医療圏名	医師偏在指標及び区域の指定		順位 (位)
	指標	区域	
全国（参考）	239.8		
秋田県	186.3	医師少数県	41 / 47
大館・鹿角	124.0	医師少数区域	321 / 335
北秋田	130.2	医師少数区域	309 / 335
能代・山本	145.6	医師少数区域	273 / 335
秋田周辺	251.8	医師多数区域	61 / 335
由利本荘・にかほ	149.6	医師少数区域	262 / 335
大仙・仙北	143.1	医師少数区域	280 / 335
横手	159.0	医師少数区域	233 / 335
湯沢・雄勝	133.1	医師少数区域	303 / 335